

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：TEL:03-3541-5151

担当者の所属・氏名：内科 平沼 茉純

【研究責任者】 聖路加国際病院 内科 平沼 茉純

内分泌代謝科 能登 洋

免疫チェックポイント阻害薬(オプジーボ®、キイトルーダ®)

を使用した甲状腺に関する研究

1.研究の対象

2003年7月22日から2019年5月23日までに聖路加国際病院の外来および入院にて免疫チェックポイント阻害薬(ニボルブマブ(オプジーボ®)、ペムブロリズマブ(キイトルーダ®))を使用した方。

2.研究の目的・方法

免疫チェックポイント阻害薬が種々の悪性腫瘍の適応となり、その使用が拡大されています。しかし、その作用機序から自己免疫疾患を惹起する可能性が考えられ、特に甲状腺機能異常症を発症する報告が散見されるようになりました。

内分泌障害によって生じる倦怠感等の症状は、癌などの原疾患によるものと誤認される可能性もあり、免疫チェックポイント阻害薬を使用する際は、内分泌障害が生じうることを予め認識し、早期発見と早期対応が極めて重要となります。

しかし、どのような患者さんが甲状腺機能異常症を発症しやすいかのリスク因子について検討した研究は少なく、本研究では免疫チェックポイント阻害薬使用による甲状腺機能異常症の新規発症に関わる因子を評価することを目的とします。

方法としましては、2003年7月22日から2019年5月23日の免疫チェックポイント阻害薬使用患者さんのカルテレビューで行います。

3.研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、病歴、治療歴、カルテ番号、血液検査、超音波検査、CT検査、シンチグラフィ等